



鈴鹿市立明生小学校

明生の旗高く

＜ 学校教育目標 ＞
地域とともに
明るく元気に生きる
明生の子

「学力・学習状況調査 児童質問紙調査」の結果について

4月17日に6年生を対象として、令和8年度の全国学力・学習状況調査を実施いたしました。その際に併せて実施しました、児童質問紙調査の結果および分析をお知らせします。今後は、児童質問紙調査の結果を受けて、子どもたちの資質・能力が向上するように、学校の教育活動を改善していきます。

なお、今回の調査により測定できるのは児童生活の一部分であり、能力全般を表すものではありません。

児童質問紙調査 ～今、求められる力～

肯定的回答割合を表示

	児童質問紙調査	本校	全国	差
主体的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	68.9	77.6	-8.7
対話的な学び	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている	96.6	85.7	+10.9
深い学び	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	82.7	80.8	+1.9
個別最適な学び	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	79.3	80.8	-1.5
協働的な学び	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	96.6	91.4	+5.2
学びのアウトプット	授業では、各教科など学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	62.0	73.4	-11.4

【 強み 】

「今、求められる力」では、全体的に昨年度に比べ肯定的な回答の割合が高くなっており、特に「対話的な学び」や「協働的な学び」に関する数値が良いため、日頃の授業改善が子どもの学びの姿へと表れています。

これは、昨年度から校内研修で、「友だちの意見を聴き、自分の考えを深める取組」を実践してきたことの効果が出ていると考えられます。

【 弱み 】

「学びのアウトプット」は、昨年度に引き続き数値が低く、学んだことを活用することが苦手です。「主体的な学び」に関しては、授業の中で学習方法を選択し情報収集したり、自分で学び方を考え工夫し、課題解決に向けて取り組んだりする力が不足しています。

調査結果を踏まえた取組

今年度の研修は、子どもの「主体性」を重視した学びに力を入れています。子ども一人ひとりの理解度や特性、興味に応じて「めあて」を設定させ、「ふりかえり」の充実を図っていきます。
また、自分が設定した「めあて」を達成するために、自分で学習方法を選択させ、自分のペースで学習を進めていけるような取り組みを進めていきます。

非認知能力

否定的回答割合を表示
(+〇〇は課題がある項目)

	児童質問紙調査	本校	全国	差
やりぬく力	わからないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	37.9	19.8	+18.1
自制心	学級会における学級での話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	31.0	21.3	+9.7
自己肯定感	自分には、よいところがあると思う	24.1	14.1	+10.0
社会性	人が困っているときは、進んで助けている	6.9	6.5	+0.4

【 強み 】

社会性は、全国値より否定的回答が上回っているものの、差はほとんどありません。「明生タイム」などを通して、子どもと子どものつながりを育てていることや、地域の方々との触れ合いが、結果につながっていると考えられます。

【 弱み 】

全体的に非認知能力の否定的回答が高いです。特に「やりぬく力」については課題であるため、学校生活全般を通して力を育ていく必要があります。

調査結果を踏まえた取組

非認知能力を身につけさせるために、日々子どもに対する声掛けの改善をします。
また、2学期には家庭学習の質を向上させるために、自分で目標を設定し取り組む活動を学校全体で行い、家庭学習時間を確保するとともに「やりぬく力」を身につけられるようにしていきます。
その他には、毎日の生活に目標を設定し、定期的に振り返る取組「プラス1」や、子ども同士が相互に良さを認め伝え合う「ぐっじょぶさん」の取組を実施していきます。